



道路雜觀

貴族院議員
文學博士

伯爵林博太郎

自分は技術家でないから別にこれといつてお話しすべき材料もないが従来道路會議に關係したこともあるのでたゞ斷片的に道路に就いて思ひ泛んだ儘を述べて見たい。

道路計畫と下水工事

道路の改良を都市の面目といふ事から考へると下水工事が其の根本であると思ふ。即ち下水工事と共に電信線電話線その他路上の建設物を悉く地下に收藏することが必要である。その次に路面の改善を施すべきである。無論瓦斯管の如きも成べく地下のトンネルに下水と共に埋設するが宜からうと思ふ。それらに就いて佛蘭西にはエーグといふ設備がある。是は極く舊いものであり又専門家の言に依れば失敗の見本であるといふことも聞くのであるが吾々素人から見れば之に依つて立派に整理が行届いて居るやうに思はれる。

日本に於ては之に反して下水工事も多少はやつて居るが大體に於いては道路工事の方を急いで居る。そして下水の方は手を着けずに居るが、是では又遠からず、一度出来た道路を掘り返して下水工事をするといふやうな時機が来るのではないかと思はれる。道路の改良は勿論必要ではあるが、是は下水工事といふものと同時に起工すべきものであると思ふ。さうしなければ幾ら何十年計畫を以てやつても、日本の都會の道路といふものは出来上る時はなからうと思ふ。即ち下水と共に道路の改良計畫は立つべきものではないかと自分は感ずるのである。聞く所に依ると豫算面で道路費として取つたものは道路工事に全部使つてしまはないと、他の工事に流用される虞れがある爲に、先づ急いで多くの道路を造つて、さうしていつか又下水を拵へるのだといふ話であるが、一度出来た路面を掘り返せばやはり又澤山の金が掛るのである。果して然りとすれば甚だ今日の道路計畫といふものが自分は不統一ではないかと思ふ。

又電信柱の如も各事業者間の協定といふものが十分に出来て居ないと見えて、逋信省の電信電話線もあれば又電燈會社の電燈線もある、電氣局の線もあるといふやうに皆が別々に勝手に柱を建てて居るといふ實際の狀況であるが、路幅の狭い所へ持つて行つて柱をゴチャ／＼建てられることは道路の爲に非常に困る、是等も何とかして貰ひたいものだと思ふ。

それからモウ一つ道路の利便といふことから自分の考を述べるならば、建築もさうである。道路に面する建築といふものがどうも法令の規定通りに行はれて居らないやうに思ふ。是は放任して置けば、道路との境から三尺引込めて建てるなどといふ規定を守る人はない、であるから道路の幅を見ると、三尺の歩道が二尺になり、六尺の歩道が三尺にしか使へないといふことは殆ど從來一般の例である。これに對して何等の制裁を加へることをせず、又今日の如く政黨内閣になつては、人民の所有權に關係する問題であるからうつつかり手を着けられぬといふやうなことから益々この道路の整理が出来ないやうになつて居ると思ふ。是等も十分に取締をする必要がある。

悪路の損失

日本は一昨年の大震災で七十億の財産を無くしたのであるから、將來各方面に就て無益の損失を省いて非常な困難に打勝つてお互に努力して行かなければならぬと思ふが、それに就て道路の悪い爲に一體どの位日本の富といふものが損失を受けるかと言ふと甚だ其の損する所が尠くないと思ふ。例へば自動車を飛ばして泥だらけの東京市内を走る爲に、菓子屋だらうが魚屋だらうが、此の塵埃の爲に

どの位迷惑を受けるか分らぬ。蓋し其の損失といふものは之を金に見積つたら非常なものだらうと思ふ。其の他道路の悪い爲に吾々が非常な損失をして居ることは事實である。近來電車が混雜して困ると言ふ事實は吾々としては成べく歩かうとするが、道路の悪い爲に下駄を汚す事が非常に多いものだから、ツイ電車に乗つた方が宜いといふことになる。随つて僅かに一停留場の間でも電車に乗るやうになつて電車は益々混雜する。是は都市の住民として甚だ迷惑なことである。買物をするのでもまア三越などのやうな店があつても何もかも一つの店で買へるから宜いが、是が一つく買物の變る毎に他の店に行くといふことになつたら實に道路の悪い爲に非常な不便を感じるのである。東京市あたりでも兎角いろくの事が一方に偏つて、一般の市民に平等の幸福が預たれないといふやうな事柄は道路の不整理から來るのではないかと自分は思つて居る。獨逸あたりでは道路の管理を嚴重にしてさうして道路と建築との關係に就ては制限があつて幅の廣い道路を設けなければ家を建てさせないといふ規則が出来て居る。日本はさういふ法令が無い爲に、甚しいものになると殆ど道路に密接して家を建てるから今度道路を擴げようといふ時には如何にも澤山の費用が掛る。市區改正の計畫を樹てるにしても更に路幅を増すといふことに就ては容易な事ではないがと言つてそれをやらなければ都市の發展にはならぬ。是等も或は其の法令規則の上に就て、何等か研究の餘地があるのであらうと思ふ。

歐米の實況

自分は千九百二十年から二十一年にかけて歐米を巡つて、その時に道路の状態も視て來たのであるが、亞米利加は到る處道路が悪い、紐育などは殊に悪い、路面に穴があき放題である、修繕をしたくも金が無いといふ有様で、亞米利加は今日種々の事業に金が無くて苦しんで居る。自分の視た中では獨逸の伯林の道路だけは良かったが、他は皆いけなかつた、紐育は他の都市よりも自動車の數が多い爲めであらうが、非常に道路が悪かつた。自動車に乗つて通つて見ても、道路の眞ん中に大きな穴があいて居つて、そこへドカン／＼と自動車のタイヤが入つて路面が壊れるといふやうな状況で、この道路を始終良く修繕して置くといふことは金のあると言はれる亞米利加の如き國でもなか／＼そこまでは廻り兼ねるものであるといふことを自分は感じたのである。田舎の道路は亞米利加も相當に整つて居るけれども都市の道路に至つては非常に悪い。

それから英吉利の倫敦を中心としたイングランドといふ所の自動車道は非常に發達して居つて、例の تاکレーといふ非常に安い材料で拵へてある。先づ狭い所は六間幅から八間幅位の田舎道が到る處山の天邊まで自動車が行けるやうになつて居る。さうして方々に自動車業者の組合の組合員が經營して居るホテルが出来て居つて、自動車に乗つて樂にそれからそれへと泊りながら景色の好い所を見て歩くといふ旅行が出来るやうになつて居る。佛蘭西でもこの頃は田舎の道路が大變良くなつて、フオンテールと稱して巴里を中心にして四方に出来て居る、併し佛蘭西は戦後非常に金が無くなつてしまつて困つて居る際であるから修繕は出来て居ないが、すべて外人の遊ぶ施設に於ては整うて居る國であるから、道路にも中々立派なものが残つて居る。

日本でも何か安くて容易に修繕の出来る方法を講じて行かなければ到底今日の状態を以て満足することは出来ない。修繕に一坪十圓以上も掛つては中々やり切れるものではなからう。又始終注意して小破の中に之を修繕して行くやうにしなければならぬと思ふ。又幾ら一時は良い道路を拵へても其の後の手入をせねば何にもならぬと思ふ。平生の手入に就て佛蘭西などでは一面にブラシで水を掛けて始終洗つて居るので道路が大そう綺麗である。是は亞米利加等でもやつて居る、紐育などでは刷毛見たやうなもので木の目が出るまでゴシ／＼洗つて居るが、又ポンプで水を掛けて洗つて居る所もある、是等は日本のやうな田舎道路の多い所では、いくらやつても十分には行届くまいが何とかモウ少し徹底的にやらねば田舎から来る車などに附いて居る泥土が五分も六分も溜つて居るやうでは折角拵へた道路も臺なしになるだらうと思ふ。どうも今日は掃除が行届いて居ない、此の點は歐米の方が非常に宜しい、歐羅巴では夜半から夜明にかけて車などが通らぬ時に洗つて居る。尤もいくら西洋だからといつて田舎から馬力車も来るしするから道路上の馬糞といふものは夥しいものである、だから始終掃除をしなければ汚なくて仕様がなない譯である。

歩道の施設

それから歩道といふものは一番最初に造つてはどうかと思ふ。是は唯煉瓦を敷いたゞけでも濟むのだから之を早く造つて人が通れるやうにしたら宜いと思ふ。其の幅員も今現に造られつゝある幅では狭くて困ると思ふ。さうして下水は此の歩道の下に埋設するのが宜いのではないか。現に獨逸

などではさうして居る、いろ／＼の線を一つに纏めて歩道の下を通して居るが、これも一つの方法だと思ふ。尙ほ歩道に就ては冬季になつて道が凍つて來ると歩く人が滑ることがある。又屋根の上から雪が滑り落ちる爲に歩道を歩いて居る者がうつかりすると怪我をする事がある。それらに就いての家主に對する制裁といふものも歐羅巴では中々やかましくなつて居る。家の前の歩道で滑つて怪我をすれば、藥代は其の家から取れるといふことになつて居る。であるから家主は毎朝其の歩道に靴が滑らないやうに砂を撒く義務がある、是は砂を撒いて歩く商賣人が居つてその者に金を與へて砂を撒かして居る。さういふ譯で家主は自分の家の附近の歩道は自分のものと思つてやつて居る。それ等も大いに必要な事だと思ふ、どうしても道路を大事にするといふことを一般人が考へるやうにならなければいけない。兎に角日本の道路はもう少し掃除をして貰ひと思ふ。

それから歩道に就ては、日本でも此の頃各都市の都市計畫といふものが出來て、だん／＼道路が良くなつて來れば普通の歩道と車の走る道とは無論區別されるだらうと思ふが、今日伯林あたりでは十字街の所は大抵一方は高い橋の上を通つて居る。これは自動車が多く通らなくてはならぬといふやうな要求から來たのであらうが日本のやうに十字路になつて居る所で、一々非常な時間を費すやうでは困ると思ふ。

田里の下水

下水なども暗渠で立派なトンネルになつて居るやうなものは一つの道路と見て宜いだらうと思ふ

巴里の下水のトンネルなどは舟で通れる所もあり、トラツタで通れる所もある、是は一週間に一度一般に見せることになつて居つて、自分も其の内を通つて見たが、あまり宜い氣持はしなかつた併し兎に角水道でも下水でも皆一つのトンネルの内に納つて居るのであるから、修繕をするにしても譯はないトンネルの内には電燈が點いて居つて立派な往來である、内部はなか／＼能く整頓されて居つて、そこを舟が通つて居る、その舟は長靴を穿いた人夫が引つ張るのであるが、是はまア外人に見せようといふ巴里の自慢の施設である今日となつてはあゝいふ設備を施すことは容易ではないが、日本でも此の下水に就ては進んでうまい工夫をして貰ひたいものだと思ふ。

道路と運河の整備

次に道路と密接な關係のある運河に就て申すならば運河といふものも交通上非常に重大なものですから之をむやみに埋めるといふことは面白くないと思ふが近頃頻に方々を埋めて居るやうである東京の外濠の一部も埋めて居るやうであるが、あゝいふ所は折角あるのだから舟を通すやうな方法を考へたらどうか、さうして東京としては京濱間の運河を拵へることが非常に都合だらうと思ふ横濱の港も改良すると共に、東京にも千噸位の船は着くやうにして、さうして是と連絡してどん／＼自動車で貨物を運ぶやうに道路を改良することが必要だと思ふ。

歐羅巴は運河の設備が能く出来て居る、丁度川の中央に六尺位な川床のやうな溝が出来て居る、つまり川の水が無くなつてもそこだけは水が残つて居る譯である、さうして高い所へ舟を上げやうと思へ

ばその溝に舟を入れそして水を一杯満たして舟を浮べて又上の川に入れるといいふ風にして、低い所から高い所に船を送つて居る、是等も中々金の掛る設備であるけれども、日本などでも早晚斯様な設備をしなければならぬ時が来るであらうと思ふ。例へば東京の四谷見附から、虎の門あたりの所は地面が高いから、それに引くだけの水が無いだらうと思ふが、あゝいふ所に運河を設けるとしたならば例へば、多摩川あたりの水を引いて来て溜めて堰を拵へてさうして水を溜めては次に送るといふ風にするのである。今度上から下ける時には水を捨て、減らしては下の方へ持つて行くといふ風にして、どんな高い所でも低い所でも自由に舟を浮かせることが出来る。その設備は實に能く出来て居る。さうして其の船は林檎とか其他の菓物を運ぶのが主になつて居るが、舟には夫婦の者が二人で棹で押しながらゆつくり櫂を取りながら鈍い速力で如何なる山の手の方にも運河を傳つて行つて、さうして林檎などを出して賣つて居る。是等はまア忙しい中に大變悠長な點もあるけれども、又一方水運に依れば物資を非常に安く市民に供給することが出来る。現在横濱市と東京市との間には、運河がないので、汽車で運ぶのに非常に運賃が高く附く譯であるが、舟で運ぶとすれば、時間は多少かゝつても、價を安く供給される方が宜からうと思ふ。それで道路が改良されると共に、運河の整理といふものが必要だらうと思ふ。

衛生上の一問題

所で道路が改良されて路面が堅くなつたならば、従來のやうに下駄穿きで歩くといふと、足が痛くな

ると思ふ。これは歐羅巴でも同じやうに困つて居ることではあるが歩道は皆石であるこの頃は石のモザイク或は小石見たやうなものもあるが中には大きな石をずつと並べてある、その爲にどうもまめを作る人が非常に多い。西洋ではまめの薬と淋病の薬は到る處何處へ行つても廣告が眼に着く、だからこれは多いものに相違ない。一遍まめが出来ると中々薬を付けても癒らないもので酷くなると足が大きく腫れて来る、其の上に靴を穿くものだから中々癒りにくいといふことである。西洋人で跛を引いて居る人をよく見る、あれは大抵まめの爲である、普通吾々が遠足でもして靴でまめを作るやうなものでもなく、もつと慢性的のものである。これは確に路面が堅いといふ事が一つの原因だらうと思ふ、日本の下駄にしても同様の關係があらうと思ふ。果して然りとすれば此の事は衛生上相當考へなければならぬ問題になる。其の問題は今日まだ解決されて居ないやうに思ふ。歐羅巴では習慣上靴ばかり穿いて居る爲にその邊の事が看過されて居るが、是も餘程考へなければならぬ事が起つて來やうと思ふ。

道路と雪の掃除

道路の改良に伴つて雪に對する施設も今日の儘にして置く譯にはいくまいと思ふ。殊に建築物がだん／＼高くなつて來れば其の屋根から雪が落ちて來ると非常に危険である、五階も六階もあるやうな高い屋根から雪が滑て來ると下を歩いて居る人は怪我をする、是は實際その例もある。それで將來の高層建築物はやはり丸の内ビルディングのやうに上は平面にするのが宜いかと思ふ、さうして道路の

歩行の安全を圖らなければならぬ。又路面に積つた雪の如きも直ちに排除すれば宜いのであるが、これ等は經費に關係する事である。雪の掃除は我國でも今日多少は行はれて居るが、將來もつと速かに取除く方法を考へることが必要であらうと思ふ。

地質と道路工事

歐羅巴の道路は大抵砂地で、赤色の、丁度京都邊に見るやうな土である。伯林でも巴里でもそれから倫敦でも土とは言ひながら皆砂である。だから雨が降つても皆地に滲み込んでしまつて砂利を敷かないでもあまり道がぬからぬ、その點は大變地質が宜しいやうに思ふ。であるから巴里や伯林等の歩道は小さな石をモザイクに並べて石と石の間はセメントも何も使つてない。唯の土であるけれどもそれで十分に持つて居る。所が日本の道路は幾ら砂利を敷いても直ぐ土に潜つてしまふ、これはどうも地質上仕方があるまいと思ふ。であるから價格の比較的安いもので早く一通りの改良工事をして更に第二回第三回と段々に改良するのが宜からうと思ふ。(完)

× × × ×

× × × ×